

下作延中央町内会 事例紹介

活性化のヒント

下作延中央町内会の活動資料より一部転載

区域

川崎市高津区下作延2～7丁目・向ヶ丘

加入世帯

約2,250世帯

町内会HP



問合せ

高津区役所地域振興課 044-861-3144

住民意識調査アンケート 令和7年6月

延に住んで何年ですか？	0～5年くらい		
	6～20年くらい		
	21～40年くらい		
	41年以上		
02 お住まいの形態をどちらかお選びください。	集合住宅		
	戸建住宅		
03 下作延の地域評価	概ね良い地域である		
	どちらとも言えない		
	不満がある		
自由回答【			】
04 普段の生活で不安な事悩んでいる事がありますか？	子育て、こどもに関すること		
	家族の介護について		
	我が家の防犯について		
	自分（世帯主）の将来、終活など		
	特になし		
包括ケアシステム	知らない		
使えますか？	名前を聞いたことはある		
	ある程度知っている		
	利用したことがある		

下作延中央町内会の活動事例

活性化の ヒントに「町内会の活性化を図りたい」

令和8年に70周年を迎える下作延中央町内会は、子ども会や青年部の活動等に代表される各部でのお祭りなど様々な行事を行っています。

また、平成13年のホームページ開設を始めとして、デジタル委員会の発足やLINEオープンチャットでの電子回覧、災害時の活用等先進的な取組を行い、町内会の活性化や加入促進に少しでも繋げられるように、日々試行錯誤しています。

町内会のことをあまり知らない方にとっては限定的に思われがちな町内会活動。下作延中央町内会では、加入メリットを地域住民に周知をすることが大事であると考え「町内会の活動紹介と加入のメリットを記載したチラシ」の作成や住民のニーズ等を把握するため「住民意識調査アンケート」、若い世代向けの活動として「ハロウィンイベント」を実施する等、時代の変化に合わせて多くの工夫した取組を行っています。

町内会の活性化って必要なの？

活性化への道は決して簡単ではないけれど
それでも、町内会に入ってもらえれば、知り合いの輪
が広がり、活性化すれば地域全体にその輪が広がる

災害時において、知り合いが困っていたら、

「助けたい」って思える

町内会に入るメリットって、そういうことなんだと
伝えたい

背景

- 限定的に捉えがちな町内会活動
- 若い世代への情報発信不足
- 時代の変化に合わせた活動の必要性

取組

- ニーズの把握と加入促進
- 防災と電子化の取組
- 若い世代へ参加促進のアプローチ

社会が変遷すればニーズも変わる、町内会も変化を恐れずに活動の検討を

世代間の違いを理解して繋がりをつくる、若い世代も「必要性」を感じてもらえる町内会へ

01

「ニーズの把握と加入促進」

住民意識調査

令和6年の他町内会での事例を参考に、住民意識調査を会員全戸配布で実施。内容としては「参加できそうな活動メニュー」や「実施すれば参加したい活動メニュー」など計8項目。匿名での回答も可能であるが、氏名を記載し、活動に興味を示してくれた方については、個別のアプローチを検討しているという下作延中央町内会。

集計結果が不安の中でのアンケート調査であったが、37%の回答を得られ、担い手不足等課題がある中で、有効策を検討していく。

活動紹介と15個の加入メリット

町内会に加入するメリットって何だろう、改めて立ち返ると、言語化できない方も多いのではないのでしょうか。

下作延中央町内会では、町内会の加入率が低下している中、加入するメリットや活動内容を伝えるチラシを作成し、掲示板等において地域住民へ周知。

下作延中央町内会が考える加入するメリット、それは「人との繋がりの輪が広がること」。

02

「防災と電子化の取組」

防災名簿の作成

市の災害時要援護者支援名簿とは別に町内会独自に「防災名簿」を作成。

平成23年に発生した東日本大震災後、町内会として現地視察を実施した際に「防災名簿」の必要性を感じたという下作延中央町内会は、会員全戸に名簿の記載を依頼することで作成。

名簿は2年に一度情報を更新、災害時には会長宅の金庫に厳重保管している本名簿を自衛隊や消防署等共有することで減災への取組に繋げるといふ。

LINEオープンチャットの開設

回覧板だけでは、若い世代の会員には届かない。一人ひとりに届く情報発信の手段の1つとして、電子掲示板「LINEのオープンチャット」を開設。

オープンチャットに登録すれば、紙の回覧版のように手間をかけることなく情報発信が容易になる。平時には掲示板として活用し、災害時には被害状況等を共有することを想定。

ホームページと併用して、目的に応じて使い分けることで情報発信を行っていく。

03

「若い世代の参加促進」

ハロウィンの実施

区町連研修会での講師からの「若い人向けのイベントをやってますか？」の発言をヒントに若い世代から必要性を感じてもらえる活動を検討し、令和6年からハロウィン実行委員会を発足させ、若い世代を巻き込んだ「ハロウィンイベント」を開催。大人だけでなく子どもと一緒に楽しめることをコンセプトに実施したところ、大変好評な企画となった。

気になるイベントに1つでも参加してもらえれば、そこがきっかけに新たな繋がりが生まれる。

中央ジュニア防災隊の発足

令和7年は新たな企画として、子どもを対象とした「中央ジュニア防災隊」を立ち上げた下作延中央町内会。

消防署等との連携や防災訓練の活動と組合せることで、防災意識の向上を図っていく予定。

